婦人衛生雜誌

大正十五年十二月七日發行

第三百八十二號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第三百八十二號目次

講演

○日本石器時代民族の話　醫學博士　小金井良精述

叢談

○血液の傳說　醫學博士　飯島博

○病氣の眼相判斷　莊司秋白

育兒

○明治天皇御集に見えし兒童　村尾節三

○兒童結核と社會衛生　醫學博士　篠原昌治

家庭衛生

○西瓜の種子の血壓降下作用

○神靈術の實驗

○香油繰の匂拔き

雜錄

○人口增加と死產及び離婚○學校看護婦設置狀況○兒童扶助法案

○東京市の人口と子供○歸鄉女工の健康狀態調査○特殊營業從業者の保菌檢査○兒童愛護學校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本石器時代民族の話

醫學博士　小金井良精　述

國民乃至民族の將來を思ふ時には先づ第一に人種衛生と云ふことを考へなければならぬ、それには人類學上吾が民族は如何なる品質のもので、他の民族に比し如何なる特質を有して如何なる地位狀態に在るかを明かにしなければならぬ。それで此の講演は本誌には稍〻緣遠い樣ではあるが、その實衛生學の根本問題であり且は我々の御先祖の御姿を一層明かに拜するよすがともなるので、茲に紹介した次第である、これは第八回醫學談話會に於ける小金井博士の講演に係るものであります(編者)。

日本に人類の遺した古い跡がある、歷史にないところの卽ち歷史以前の遺跡がある。この先史時代といふのは何年前のことであるか實年數を以て數へることは出來ない、併しながらこれを地層學上からいふと決して古いものではない、極めて新しいものである。

一般に人類文化の順序を石器時代、金屬時代とするが、それは各時代に於ける利器を造る材料に依つて區別したもので、石器時代に於ては石を以て利器を造り、金屬の使用法を未だ全く知らなかつた。金屬時代を更に分つて青銅時代、鐵時代とし、鐵器の前に銅若しくは青銅器が使用せられたことは認められるが、併しこれは必ずしもさうでないこともある。土地の情況によりて材料を得る難易にも關することである。又普通石器時代を舊新の二時代に分ける。舊石器時代は地層學上の洪積期にして歐羅巴の氷河時代に當る。この舊石器時代といふは非常に

長い間のことであつて、その前期に於ては現代の人類とは重要なる點に於て異なつたところの形態上原始的の人類(Homoprimigenius)が居た。大凡地球上に始めて人類が出現したのは何時頃か、洪積期よりも尚ほ古く卽ち第三紀に既に人類が在つたか、これは問題であつて未だ決定しない。

日本には歐羅巴の様な舊石器時代の遺跡遺物は未だ發見せられてない、全くその手掛りもない。日本のものは遙かに新しいところの所謂新石器時代である。この時代に於ては地形は略ぼ現今の通りで、氣候も今と格別變りなく、また生存して居た動物も人類もその形體に於て大體同樣であつた、植物もまたさうであつたらう。併しながら當時の人類の文化の度合は甚だ低い原始的のもので、卽ち新石器時代であつた。

この人間の遺した遺跡遺物が日本に澤山ある。それは如何なる狀態になつてあるかといふに、その主要なるものは一、貝塚、二、遺物包含地、三、天然洞窟等であるが、本日は主として貝塚に就て話すことにする。

貝塚は貝殼が澤山堆く積つてゐるところである多少土壤を以て覆はれてゐるか或は露出してゐる。後の場合に於ては遠方からでも眞白く雪が降つた樣に見える。貝塚は方々に澤山ある、武藏、下總、常陸などには殊に多い。貝は海の貝である、それ故に貝塚は海濱又は海から餘り遠くないところにある。併し稀には沼などの邊に淡水産の貝塚もある。貝塚を掘つて見ると貝殼の外に種々な遺物がある。

その遺物は何樣なものであるかといふに、先づ土器が澤山出る、甕、壺、鉢、皿等多くは破れた片らである、稀には完全なものもある、燒き方は甚だ粗糙な瓦の樣なものであつて、これに種々な紋樣があるが、繩の編物を押し附けた樣な所謂繩文が特徵としてある。石器、石を以つて造つた種々な利器、石鏃、石鎗、石斧、石匕等、骨角器、鈷、錐、針の類。裝飾品、石、角、牙、骨、貝、土等で造つたもの。その外

動物の骨、獸鳥魚等の骨が澤山出る、而して極めて重要なることは貝塚から人骨が出る。それは斷片的のものもあるが多くは一個人の骨骼が纏まつてある、かかる人骨の發見が年々増加して今では夥しい數に達してゐる、殆ど一千體に近い人骨が出てゐる。僕の手元にあるものだけでも約百三十體もある。

さて貝塚とは何であるかといふに、これはその當時の人が食餘の屑その他不用物を棄てた場所である然らば貝塚と人骨との關係は如何といふに、彼の日本貝塚の發見者モオルス氏はその時代の人には食人の風があつたといはれた、が併し貝塚中に人骨の存在狀態が動物の骨と同樣に斷片的にあるといふことの外にはこれを首肯せしむる樣な事實は何もない。今述べた如く夥しい數の人骨が發見せられてあるにもかかはらず食人の形跡を見ることが出來ないのみならず全體完全に揃つて出る。

然らば當時の人が死人を不用物として塵棄場へ棄てたか、僕は決して左樣ではないと思ふ。完全なる骨骼の存在の狀態を見ると大抵の場合に於てそれが貝層の下にある。僕はその當時に於ても屍體が一定の方式を以て埋葬せられたものと思ふ、貝塚即ち不用物棄場と墓場とは全く別物である、唯偶然貝層が墓場を覆ふたのである、貝塚と墓場と重なつたのである。且つまたこの骨骼を遺した民族が貝塚を造つた民族であるといふことは疑ない（その詳細は既に發表してある）。

茲に重要なる問題はこの貝塚民族は如何なる種族であるか、これを決定しなければならぬ。僕は自家の專門とする解剖學上からこの人骨を調査しつつあるが、これを現代の日本人のものと比較して見ると違ふといふことは甚だ著明である、即ち我々の祖先のものでないといふことは明白である。然るに北海道「アイノ」の骨骼と比べて見ると特徵は相互に類似してゐる、大體に於て一致してゐると言ふて宜しい今試みに石器時代人骨と「アイノ」のものと類似して日本人のものとは相違するところの二三の主要なる

點を擧げて見れば、前二者の頭蓋稍〻長めにして低きこと、額低くして傾斜せること、顳顬坦面稍〻平坦なること、眉上弓及び眉間の強く隆起せること、鼻前頭縫合強く引つ込みたること、頭蓋縫合鋸齒の簡單なること等である、又顏面稍〻低きこと、鼻背高きこと、眼窩低くして廣きこと、齒槽突起の傾斜少きこと等。又肢骨に於ては上膊骨內側前面が平坦にして、橈骨神經溝が深く、三角筋凸起強く、これがために中央部がその示數の示す如く扁平なること(Platybrachionie)。尺骨體は扁平なるばかりでなく、中央の最大徑及び最小徑の方向に於て極めて特種なること、卽ち最も多くの場合に於て最大徑が背側緣と骨間櫛との間に、最小徑が掌側緣と背側面との間にあること、僕はこの形態を Platykubitonie と稱する。然るに日本人にては最大徑が內側面と骨間櫛との間に、最小徑が掌側緣と背側面との間若しくは背側緣と掌側面との間又はこの二徑同一である。大腿骨の粗糙線が龍骨形に隆起せること (Säulen oder Pilasterform des Femur)。脛骨强度に扁平なること (Platyknemie)。腓骨はその外側面に屢〻縱溝を有すること (Kannellierung der Fibula) 及び扁平なること (Platyperonie) の外に概して强大なること (Megaperonie) 等である。かやうな理由からして僕は日本石器時代遺跡は「アイノ」の祖先の遺したものであるといふ見解を以てゐる、それ故に僕はかかる遺跡を「アイノ」式遺跡と稱してゐる。

この「アイノ」式遺跡は日本全國(新領土を除く)に亙つてある。本州、四國、九州、琉球まで擴がつてゐる、卽ち日本國は、曾ては「アイノ」國であつた。其處へ大陸の方から日本民族の基本成分たる「モンゴリヤ」人種が漸次渡つて來た。そのときは決して無人島ではなく既に原住民たる「アイノ」が居た、そこで兩民族が會遇してその間に爭鬪もあつたらう、平和のときもあつたらう、そうして長い歲月を經て常に優勢なる日本民族のために「アイノ」は段々東北に退行した。今日の北海道樺太に居る「アイノ」がその

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

後裔である。又この長い歳月の間に既に石器時代からして兩民族の間に混血が行はれてゐた、石器時代人骨に付てもその證跡を認めることが出來るが、今日の「アイノ」中には多少「モンゴリヤ」人種の血液が混じてゐる。他方日本民族中に「アイノ」の一部が同化せられて今日の日本人中にも少なからぬ「アイノ」の血液が流れてゐるといふことは疑ないことである、日本民族構成には「アイノ」人種も大に關與してゐる次第である。

僕は從來日本民族を研究してこれを人類學的に明かにしたいといふことを畢生の研究問題としてゐるが、日本民族は決して單純なる一人種ではない、種種な人種が寄り集まつて出來たところの混成民族である。併しながら東北亞細亞の黄色人種がその本幹となつてゐるといふことは疑無からう。近來朝鮮に於ける考古學上の研究が進むに從つて內地に於ける日本民族祖先の遺跡と朝鮮に於て發見せられる遺跡との關係が段々慥かまつて行く樣である。「アイノ」人種が日本民族構成に密接なる關係を有つてゐることは今言ふた通りであるが、その他尚ほ東南亞細亞の民族にも關係があらう、又殊に「マレイ」種族の分子が少なからず混じてゐるといふことは廣く唱へられてゐる。尚又南洋諸島の種族の或分子も混じてゐるかもしれぬ、これ等の關係も今後大に研究せねばならぬ問題である。

終りに尚ほ一言したいことは近年人類學の一部門として人種衞生學又は優生學といふことが歐米に於て盛に唱へられる樣になつて來た、日本に於てもその通りである。

その目的は人種又は民族を改良するといふことであるが、この問題を論議するには先以てその實體たる人類といふものを研究してその本體を明かにせねばならぬ。民族を構成するところの種々なる人種的成分を明かにせねばならぬ。

而して各人種の差違及び各個人の無數の差違が如何なる法則に從つて遺傳せられるか、又如何なる法

則に依つて民族の上に淘汰作用が行はれるかといふ様なる問題を深く考察して、然る後始めて總ての社會的及び政治的勢力が民族の品質の上に及ぼすところの影響を理會し得る筈である。その知識と理會となくして人種衛生、社會政策、殖民政策などを論議するのは、それは暗中模索と言はねばならぬ。

我々は我日本民族を人類學的に根柢から研究してかからねばならぬ、日本民族を改良して形體的にも精神的にも優秀なる民族として世界の諸民族に對抗して生存競爭場裏に優勢を占むるといふことにあるのである。日本民族研究の一端として石器時代人に付て一場の談話をなす機會を得たことは誠に欣ぶ次第である。

叢談

血液の傳説

醫學博士　飯島博述

今日醫學界に於て研究興味の中心となつて居るものは實に血液の研究、所謂血液學で、諸種の血清療法、輸血法又緣族の鑑別等種々有益な應用を見るやうになつて來たのも皆この血液の研究の結果で、まだ〳〵この血液の中には幾多の神秘が包藏されてゐる慨がある。されば太古より血液と云ふものに關して不思議な考を懷かれて居つたことは敢て怪しむに足らぬ。豐橋市の飯島病院長として令名ある飯島博士は「血液の傳説及輓近血液に關する研究の進歩」と題して醫學雜誌「實驗醫報」に興味あり且有益なる歷史的觀察を述べられて居る。併し西洋の事は緣遠く、醫學的の解説は讀者諸姉には不向きと思はれま

すので、主として日本及び支那の傳説に關する第一篇だけを玆に轉載させてもらふこと丶致しました（編者）。

血液は洵に無氣味なものであるだけに、昔から神秘的に考へられて從つて面白い傳説の多數を殘してゐる。夫れが日本ばかりでなく支那でも歐洲でも一様に、血潮を靈妙不可思議なものと信じてゐたのだから尙ほ面白い。

淨瑠璃に現はれた血潮の傳説

卑近な例を日本の劇から上げて見れば、妹背山の御殿の段に、爪黑の鹿の血汐と凝着の相ある女の生血を混じて笛に注ぎ、これを調べて蘇我の入鹿を昏倒せしめんとする所がある。これ等は血液を全然不可思議の物として取り扱つた牽强附會の例であるが、生血を飮用して痼疾を治することは屢〻稗史小說にも記されてゐて百草を嘗めて醫藥を知るといふ神農を超越してゐて甚だ面白い、淨瑠璃の朝顏日記や合邦が辻や安達原に面白くこのことが仕組まれてゐる、寅の年、寅の月、寅の日、寅の刻に生れた女の肝の臓の生血が癩病を治すと云ふが如きである。

小說に現はれたる血潮の傳說

名著八犬傳の一角誅戮の章にも胎內の子の生膽とその母の心の臟の血を取つて木天蓼の細末と煉り合せこれを用ゐれば失明を癒し得るとかいてある、一角は怪猫であるから生血に木天蓼を配したのであるこれ等は隨分慘虐な治病の法で讀むからに肌に粟を生ずる。

又現代醫師の立場から見ても無理でない構想で綴つてあるものが同じく八犬傳の內にある。

> 破傷風腫疼みて日を歷るまゝに瘡口癒えず或は血の走る事線の如く久しふして止らず將に死なんとしたるとき年少き男女の鮮血各五合をとりて合してその瘡に沃ぎ洗へば疼祛り腫退きてその瘡は立地に癒え氣力も一日にして本復すること譬へば霧をもて塵を拂ふが如し。と。

この例などは生血を用ゐる手段が一段進步したもので、現代吾人の誇りとする血淸療法を思はすに十分である。

中歐に於ける血潮の傳說

バイエルンでは昔から熱のあるときに病人から血を取つて、淸淨な布につけて穴藏の樣な冷たい所に置くと、熱が直に降ると云ひ傳へてゐる。又南ウンガリヤの「チゴイネル」人には熱を降げるために日出前に木のそばへ行つて、左の小指をこすつて血を木に塗り、而して熱よ去れ木の中へ行つてしまへ、と云ふ、迷信が傳はつてゐる。

斯樣に血液と結び付けた荒唐無稽の迷信は、中歐に於ても行はれてゐたのである、バイエルンでは小兒の痙攣に、父が自分の指を刺して創から出る血液三滴を與へると癒るといひ傳へてゐる。

耶蘇紀元一乃至二世紀の頃の Aretius Cappadox と云ふ醫者が、

癲癇を病める人が持病を治さんがために刑場で斬首者の血液をすぐさま皿の上に滿々と汲んで呑んだのを見たと云ふ實見談を記載してゐる。

有名な詩人 Andersen も一八二三年に、迷信に陷つてゐる兩親がその子の病を癒さんとして、刑場で斬首者の血を一杯の盃に入れて呑まし、夫れから兩親も一緒になつて病人が疲れ切つて倒れる迄走り廻したのを見たといつてる。

斯く死刑囚の血液が癲癇や癩病の妙藥として珍重されたがために當時の死刑施行者は特種の藥種商の觀があつた、昔日本で刑場守が斬首者の腦を窃に取つて妙藥として鬻いでゐたのと好一對である。

Plinius も羅馬人は癲癇を癒さんとして殺された劍客の生血を飮んだと記してゐる。

耶蘇紀元三乃至六世紀ビザンツの醫師 Aitius も Alexander von Tralles も、癲癇に生血は妙藥であることを稱へてゐた、夫れのみならず紀元前一五〇年の Papyrus Ebers と云ふ古代埃及の藥物書に血液は治病に效のあることが記載してある、又紀元前三〇〇〇年(伏羲氏以前)に既に支那で血液は治病の力ありとして醫藥に使用したと云ふことが支那の藥物書にかいてあると云ふことである。

獨逸の Dioskurides と云ふ藥物書には色々の種類の血液が治病に效のある旨を記してある、例へば鳩の血液は眼の新創及び皮下出血の際の塗劑である、山羊や兎の炙つた血は止痢劑である、龜の血液は癲癇の適藥で、葡萄酒や或る種の草藥と混じたる海龜の血は動物に嚙まれたるときの毒消である、牡牛の血と蒸したる麥粉を混じたものを硬結を治するに用ゐ鳩の血液は痛風樣の足痛に外用した、であるからこれ等の迷信が拔き難き力を以つて今日に於ても尙ほ驢馬の血液が癲癇に有效であると云ふ如く、未だに通俗醫藥から絕大なる信用を博してゐるのである。

五代史に次の樣な記載がある。

契丹人好飲人血。
突欲左右姬妾。
多刺其臂吮之。

萬國新話の島夷志に曰く、蘇門荅剌の酋長、每年十餘人の人を殺し、その血を取りてこれを浴す、卽ち、四時疾疹を生ぜずと。

百家說林春波樓草記に

備前岡山より二里過ぎて宮内と云ふ處に茶屋あり、遊女ある所なり、夫れより二里右の方へ入る、足守に至る、爰は木下侯の領地なり、留まる事數日、余鹿の生血を啜らん事を云ふ、領主俄に狩に出でられけるに漸く鹿一匹を獲たり、卽ち生きたる鹿の耳元を小づかを以て衝き破り血を啜りければ人々懼れをなしける。

これは日本で動物の生血を飲んだ古い實例である現今でも「スッポン」の生血は肺病の妙藥と俗間で云ひ傳へてゐる。

稗史に現はれたる滴骨及び滴血辨親の說

これとは事柄が違ふが八犬傳に、

赤岩一角に扮せる妖怪が殺される條下に、

その子角太郎の二の腕より流るる鮮血を髑髏に滴らせたら鮮血吸込む如く塗れ著きて瓦に沃ぐ水に等しく一滴も下に溢れぬ事より、親子の明りをなし得たることがかいてある。

淨瑠理奧州安達原にも同じく、鬼婆が殺したる女

は自れの娘なりしことを、骨にしみ入る血に依て思ひ當らす節がある。

五朝小説魏晉會稽先賢傳に左の事柄が記してある。

陳業字文理、業兄度海傾命、時依止者五六十人、骨肉消爛、而不可辨別、業仰皇天誓后土曰、聞親戚者必有異焉、因割臂流血、以洒骨上、應時受血餘皆流去。

又百家説林續編柳斉隨筆にも、同じ意味の記載がある。

又、古今事文類聚前集に左の記事がある、唐王少玄父、隨末死亂岳、少玄甫十才、即哀泣求尸、時野中白骨覆壓、或曰以子血漬而滲者父齒也。

又支那の法醫學書洗冤錄に左の如くかいてある。

父母骸骨在他所、子女欲相認、令以身上刺出血、滴骨上、親生者、則血入骨、非則否。

又、支那の無冤錄上卷に辨親生血屬滴骨新法と云ふことがある、尚ほ、史を引いてその例を載せ評言を插んでゐる。

昔豫章と云ふ所に封ぜられし王綜と云ふ人は梁の武帝の第二の子也、綜が母は呉淑媛と云ふ女なり、初は齊の東昏王の宮女にして寵を得し也、東昏王亡て武帝に取られて呉淑媛も亦武帝の官女と成り幸せられて七月目に王綜を生む、宮中人皆産の早きを疑ひしこと也、王綜十四五に及びて夢に一人の年少き肥て壯なる人來て王綜が首をひつさげると見ること度々のことなりし故に王綜も合點のゆかぬことと思てその樣子を母に物語てその夢の人の容貌を云立るに正しく東昏王の姿也、淑媛が答に我武帝に幸せられて七月目に汝を生む、いかでか武帝の皇子にてあるべき東昏王の王子に疑なし必ず人に此のことを洩し給ふなと云ひけり、是れより王綜日夜歎き悲しみて自分の別室にて齊の先祖を祠り又ひそかに曲阿といふ處に行て齊の明帝の陵を拜し怠ることなし、然れども猶も疑はしく思て俗説に聞たる子の血を死せる父の骸骨に灑ぎ血泌み込は即父子たるの驗也と、これを試んとて私に東昏王の墓を發きて骸骨を取り出して血を灑て試したるに泌み込しと也、その後西州に居られしとき次男生れしに王綜猶又試みんとしてその子を一月餘過ぎ殺して瘞んで後にその骨を取出し我が血を滴て試るに又泌み込みし

と也、これを以て觀れば洗冤錄の說、よつて來る所あり一概に疑ふべからず。

この洗冤錄と云ふ書は宋の惠父と云ふ人がかいたのである、次で趙逸齊が平冤錄を訂して、その後元朝の東甌王氏が洗冤、平冤二錄を參酌して無冤錄を編したのである、何れも、獄事檢驗の法を說きたる書であつて德川時代に於ける獄吏の虎の卷である、その內容を窺ふに、吾人の立場から見ても、首肯すべきこと柄でいつぱいである。

益軒全集の扶桑記勝に、

顯照法師が云ふ、奥の夷は、我が子人の子さだめせんとするに、父の血と子の血とを合するに、我が子なれば親子の血、ひとつになり、こと人の子なれば血ひとつにならずといへり。

又古歌に、

みちの國ゑびすの身より出す血のこと民なれやあはぬこひ哉

と云ふこともある。

本朝武家評林に左の事柄がある。

藤九郞盛長自記曰、程へて訴人、義經の御館に來り、申す樣は五條通のしかじかの町にこそ、皇后宮亮經正の公達、此年三歲に成り給ふが有りと曰ふ、義經聞召し、それぞれの役人に被仰付召す、然るに其の所の町人、夫婦連にて馳來り申上ぐるは、此の子は私ども夫婦の子にて中々經正の公達には非ず、御歸可被下と泪を流し歎き申す、義經直聞召し、經正の公樣成る由、慥に訴人有り、急度白狀すべし、若し僞物ならば汝等共に罪に可行と高聲に宣へば、彼の夫婦の者申すは我々が子に極ることはこの三年以前の何日幾日に生れ町どなりの人も存候間、近所の者ども四五輩召し、あの子は彼等が子に極まりたるかと尋ね給へば近所の者申すは、其の本は不存候へ共數年この町に住み、三年以前に子をまうけ給ふは、私共も存じたることなりと申す、義經訴人を召し、あの子は經正の子にてなし、町人の子なるよし、近所の者までも慥に申す、その方の證據有りや、眞直に申せと宣へば彼の男申すは成程經正子疑なし、私の姪經正に被召遣有りしに懷妊仕り里へ歸り有りしが、無程誕生す、この子產母はむなしく成る故に、經正へ申し上ぐることも不叶、乳はなくすべき樣なくて、五條の橋に捨てしに、あの男

慥に拾ひ歸り候、然れば經正の公達明かなりと申す、彼の町人の夫婦承りそれは人たがいなるべし、この子を取上げたるばばもありなど申し大聲上げて泣き爭ふ、義經暫く思案して銚子土器を召し、酒を一ぱいたたえ、彼の町人夫婦が血を取り又子の血を取りて土器に入れ見給へば、血別々に分れたり、その時義經彼の夫婦を召し、是れ見よ、その方共が子にて無きこと明らけし、子細は汝等が子なれば、此の血一所へ寄り、一つになる物なれ共、他人の子故、一所によることなし、是れにて知れたり、有樣に可申と宣へ共、女は未だ爭ふ、男は暫く物も不申差うつむきて有りしが、首を上げて申すわ、此の上は有樣に白狀可仕、三年以前私の子を誕生仕ることも誠にて御座候、然るにうみ落し無程死して候、折節五條の橋を通りしに、此の子被捨有りしを、取上げ見れば產子にて男也、懷き歸り女にはかく共不知置候故、妻は唯今まで我が子と思ふ也、然れ共捨てたる本を知らねば、經正の公達と申すことは不存と申す、義經聞召し左も可有こと也訴人の口に任せ經正の子と定めがたし、三年以前に外の子を捨て間敷きにも非ず、すべきこと有りとて、熊井太郎に被仰付獄門のきはへ彼の子と共に被遣、平家の大將達の首の上に、彼の子の血を取りて置きしに、通盛、忠度、淸貞、淸房等のかしらの上に置きても何事なし、經正のかしらの上に置きたるに、血吸こみたりければ、歸り參つて此儀を申し上げしに、經正の公達にまぎれなきこと明けし、故に彼の町人には三年の養料をたび歸され、彼の子は殺害に及ぶことなむ。

扶桑蒙求に、

平兼盛妻某氏有故被出。後兼盛聞其產女、既數歲探索焉、母愛惜辭以無此事、竟訟于官。故廷尉大隅守、赤染時用判決、援據某氏言。蓋時用爲與某氏姦通也、兼盛怒曰。某氏產女必矣。若謂非平氏子。請合兩血爲明驗。然遂不果云。其女冒時用姓氏。稱赤染衛門。才貌絕倫近侍東上門院。著榮華物語二十卷。盛傳于世。

又洗冤錄に次の事が載せてある。

親子兄弟。或自幼分離。欲相識認。難辨眞僞。令各刺出血。滴一器之內。眞則其凝爲一。否則不凝也。但生血見鹽醋。則無不凝者。故有以鹽醋先擦器皿。作奸朦混。凡驗滴血時。先將所用之器。當面洗淨。或於店鋪。特取新器。則其奸自破矣。

この滴血法を取つて書いた面白い支那の小說があ

るから次に記して見やう、これは大内の支那傳奇物語にかいてある。

晉(山西省)の人で、財産を弟に預けて置いて、遠國へ商賣に出かけた者があつた。行先で何年か店を張つて居る間に、女房を貰つて、子まで出來たが、十年餘りして、女房が病氣で死んだため、店をたたんで、子供と二人故郷へ舞戻つた。それを、弟はいい顔で迎へる氣にはなれなかつた。先年預かつた財産を、永い間自分の手に握つて居た揚句には、元來兄の所有と云ひながら、今更還すのが辛かつたのだ。で、何とか文句を附けては、いつまでも夫を抑へて居るから、兄も辛抱しきれないで、到頭訴へて出た。尤も弟の方でも、最初から猫糞をきめ込む積りで、悪知慧を絞り出してそれに應ずる位の下拵へは既に肚の中で熟れて居た。

白々しい顔貌で、弟は、役人の前に出て斯う申立てた。

「兄の連戻つた子と申しますのは、あれは素性も知れない他姓から貰つて來た者で、迚もこの家に入れて、親の跡目に立てられる様なもんぢやありません。ええ、財産よりも何よりも、家系が大切ですから、それの確かな者でなけりや、兄にだつて、この家の財産も渡す譯にや參りません。」

固く言ひ張つて曲げない。兄の方は正當な言分だけに、尚更折合はない。と云つて、實否を質さうにも、交通不便な大國の昔で、兄の商賣して居た先方へ照會するのも容易でない。結局古くからの滴血法で、養子か嫡子かを見極めるのが、一番の上策だと、裁判官は思案を決めて兄とその子の血を銘々に滴らせて、容器の中で混ぜさせて見ると、如何にも血を分けた父子だけあつて、二人の血が一つに解け合つた。

弟は面皮を剝がれて、笞を受けて、役所の門から突出されて歸宅したが、それでもまた性懲もなく、未練を殘して、その儘指を銜へて引込まうとはしない。「滴血なんて何だか胡散らしい法だ」。左樣疑りだして、早速自分と自分の子の血液を、少し宛取つて、驗して見たら、どうだらう、兄の時のやうに、それが融け合はないではないか「ソレ見たことか。こんな好い加減の法で、出鱈目な裁判をしくさつた。糞ッ猒々しい!」。と敦圉きながら、すぐ夫れを證據に、縣令の判決は全然根據がないと云つて上訴した。

所が、その界隈の者は、平生から弟の惡辣な胴慾なのを指彈きして居たので、今度の執拗い仕打には、一同憤慨して、内内役所へ投書した。その内容は、

「彼の子と云ふのは、女房が××と姦通して生んだ子だから、血の合はないのは當然である」。と云ふので、密偵に調べさせた結果も、その通りに違ひない。愈々斯うと、衆口一致の事實を突止め得たから、早速姦婦姦夫を呼出して詰問すると、畏れ入つて有りの儘白狀した。

流石鐵面皮の弟も、ここが意想外な藪蛇に終つて、斯うまで皮肉な打撃を啗はされたので、をめ〱近所へ顏向けもならないので、女房も子も逐出して、自分も何處かへ身を隱した。それで、やつと財產が兄の手に取戻された。

滴骨滴血法の出處

「前述豫章王綜の傳は梁書「五十五」の列傳にあり又同じく王少玄の傳記は唐書「九十五」の孝友列傳にある、と馬琴が小說中の人物に語らせてゐる、而して、

これ等は秘藏の說なるを、ここらでいはんは惜しかれども、貴容のために譚ずるのみ、と問はるる毎に古書を引く、證文疑ふべくもあらねば、現八頻に感嘆して、應仁以來京師にすら、和漢の書籍亡失せて、四書だに全きをもてるもの稀なり、されば學問は地を拂うて、五山の僧徒などの外に、漢籍を讀むものはなきに、主人は今尚ほ青年にて、博學宏才かくの如し、いと恐しく候、と悅を述べて已まざりし。

と暗に大氣焰を吐いてゐる、然し滴骨法は恐らく漢時代から始まつたらしい。

ボスニヤに於ける滴骨の說

外國でも前記と同樣の說をなしてゐる Neuburger や Kronfeld の書に次の樣に記されてゐる。

殺人のあつた場合や、妻ある男子がその子供のただしい父親であるや否やの爭が起つた場合に於てボスニヤ地方では血液檢査と云ふことが行はれてゐた、卽ち殺人のときには、下手人が殺された人の屍體のある現場につれて行かれるのである、なぜかと云ふに、當時の人々は次の事柄を信じてをつたから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で、即ちその人が實際の殺人者であるときには、死人の創口から或は鼻孔及は口から血液がすぐ流れ初める。

これは當時の迷信によれば殺人者と云ふものは犯罪の後に、殺された人の血からどうしても離れることが出來ない樣に、不思議の力で引きよせらるるものであるとしてあつたからである、だからして惡人はこのことをのがれるためには、自分の持つてをるもの例へば兇器の鐵砲なぞを死者の上になげて置いたものである、この迷信は、軈て犯罪捜査の唯一の手懸りを供給したことであらう。

血液の引寄せる魔力と云ふものを、小供がほんとの父親を求める時に利用するには、例へば父親と思はるる人が死んでしまつたときに、その墓から一片の骨を取り出して、小供の體を切つて流れ出る血をその骨にしたたらす、そして血が骨の中にしみこむときには、その死人はただしい父親であつたのである。反對にしみこまぬときには子供はその人から出生したのではないと云つてゐる。

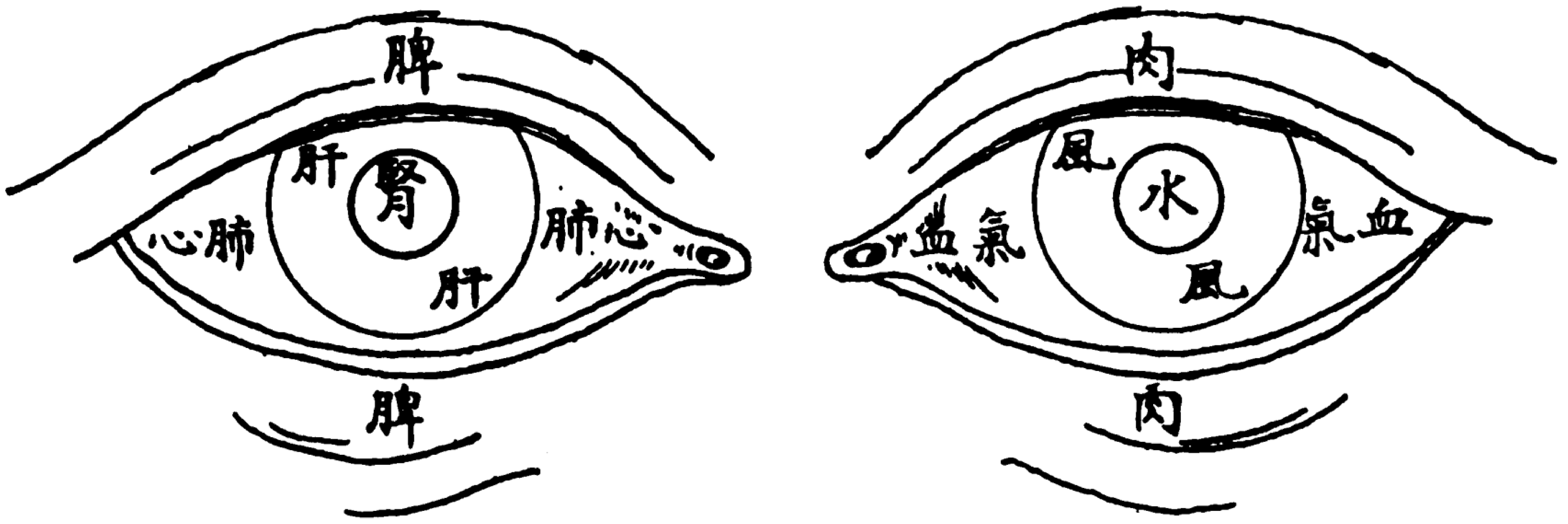
上述の古來よりの迷信が軈て今日の血清療法となり、輸血法となり、血液型の判別となり、從て父子鑑別、遺傳、人種的差異の研究を可能ならしめたのは、眞にその由來淺からざる次第である。

病氣の眼相判斷

莊司秋白述

目は五官の中でも最も高等の働をして居るので昔から神祕的の器官と看做され、種々不思議な考が附纏うて居る、支那の最も古い醫書にも、「目は五臟六腑の精なり、營衞魂魄の常營する所なり、神氣の生ずる所なり」などとあるが、この考は西洋でも同樣であつた、それで目の機能に關しては種々の宗敎的乃至哲學的の說話があるのは當然のことであるが、それから延いて醫術上にも奇妙な說があつた、

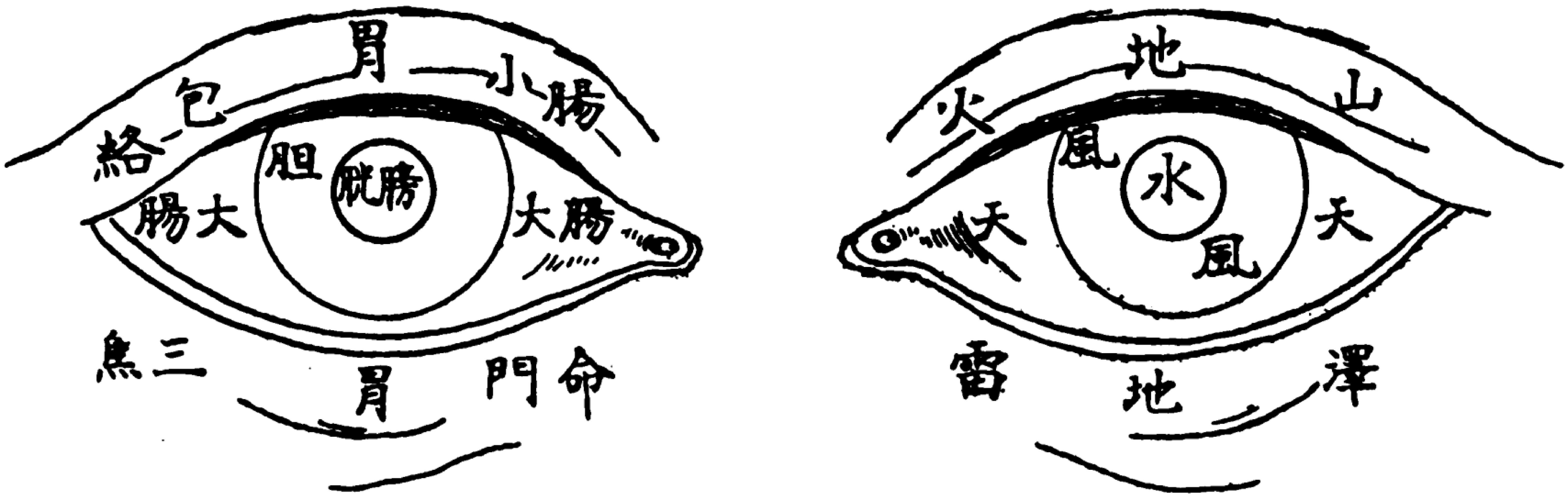
第一圖
五輪



のみならず今日でも猶ほ俗世間にはそんな說が行はれて居る。例へば目で以て一切の病氣が判斷されると云ふ說の如きはそれである。

乃ち漢方醫道に於ては第一圖及び第二圖の如く五輪八廓と唱へて、眼部を五つ或は八つの部分に區劃して、腎の病なれば水輪に變化が起り

第二圖
八廓



風輪に異常があるのは肝の病であるとか天廓に赤筋が現はれるのは大腸に病氣があるとか、胃に故障があれば地廓に證候が認められると謂ひ亦さう考へて療治の方針もこれから割出されたのである。

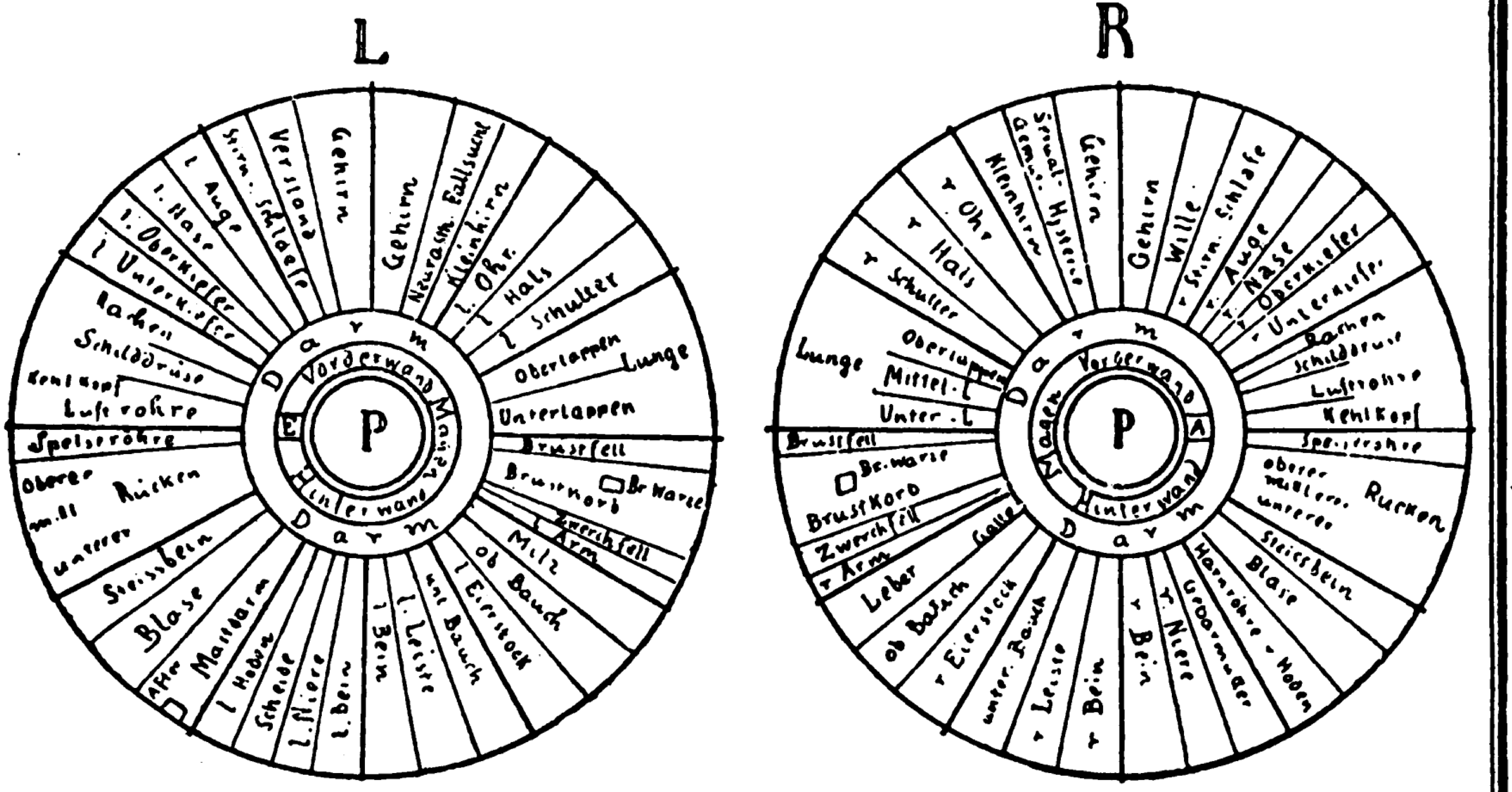
さてこの五輪八廓說は、今日の醫學、特に現代の眼科學から見てどんなものであらう。實際一切の病氣は目に現はれるか、又目の變化に由て診斷を下し得る病

氣があるかと云ふ問題になると、後の場合、即ち目の變化に由て診斷を下し得る病氣があるかと云ふ問であれば、それは確かにあると答へることが出來る例へば眼球の運動や視力の變化、又瞳孔の狀況などから腦脊髓の病氣が診斷される。殊に檢眼鏡と云ふものが發明されて眼の內部、所謂眼底疾患までも詳細に檢査されるやうになつてからは、視神經や網膜等の變化に由て腦脊髓病はもとより腎臟病、其他黴毒、結核等に原因する諸種の疾患が診斷されるやうになり、特に目の變化が最も早く且つ最も確實なる徴候と看做される病氣もあるくらゐである。併し一切の病氣が目に現はれると云ふ事は誤である、從て昔の五輪八廓說と云ふやうなものは成立たない、今日の生理學や病理學からは、そんな簡單な都合の好い診斷は出來ようがないのである。

診斷でも治療でも、今日往々民間に信ぜられ、非醫者や山師者共が行つて居るやうな事は、大抵、この類のもので、よく當るとか、よく利くとか云ふてそれで相當に流行して居るが、孰れも昔の醫學の屑籠の中から拾ひ出したものに過ぎない、即ち一時昔の醫術に採用されてゐたが幾多の經驗と研究の結果廢物となり、或は他の良藥善法に依て代はられた、その效驗の少ない不都合なものを拾ひ取つて大事さうに吹聽するのである。さうでなければ右の如き不合理な一つの型になつて居る診斷法に、此方から嵌つたり、病氣に依ては幾分の效があると云ふ程の廢藥に此方の身體を利かしたりして悅んでゐるのである。

右の樣な次第で、この五輪八廓說と云ふものは、解剖學も生理學も病理學も極めて幼稚な昔々の時代に出來るだけ智慧をしぼつて工夫した說であつて、今日それをそのまゝ應用するのは甚しい見當違ひで、寧ろ滑稽に屬するのは已むを得ぬ次第であるが兎も角も昔は眞面目に考へられた立派な學說であつたのである。ところが今日西洋の俗間で流行する虹彩診斷又は眼診斷と云ふものは、全然醫學の心得の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



パストル、フエルケ虹彩區分

ない者が、好い加減に勝手な型を拵へて無雜作に診斷をつけるのであるから、實に馬鹿らしいもので、それが又流行するのであるから實に世間は廣いものだと申さなければならぬ。今少しくその本性を摘發して、世人が何れの國にも行はれる此種の山師者や非醫者などに欺かれ或は自ら迷込まぬやうに警告したいと思ふのである。

西洋で「イリスディアグノーゼ」即ち虹彩診斷又「アウゲンディアグノーゼ」即ち眼診斷と云ふのは、第三圖の如く虹彩即ち瞳孔を拵へて居る膜で、黑目だとか茶目だとか碧眼だとか云ふその色は、角膜を透して見た虹彩の色であるが、その虹彩を圖の如く區分して、前に述べた五輪八廓と同樣、各區劃に相應じた臟器があり、その臟器に病氣があれば、それに應じた虹彩の部分に兆候が現はれる、それに依て何處に病氣があるかを判斷すると云ふのである。それで此圖には各區劃ごとに腦とか甲狀腺とか肋膜とか肺だとか又腹だとか脚だとか書いてあるのみなら

ず、意志だとか「ヒステリー」など云ふことまで記込むである。而かも左右別々であつて、五輪八廓などから見れば實に好い加減に勝手放題に拵へた無學者の細工なことがわかる。それが歐羅巴、殊に理窟つぽい國民と云はれる獨逸邊で流行してゐるとは人間の馬鹿らしさ加減も呆れるより外はない。我邦に於て透視だ念射だ氣合だ祕法の注射だと云ふて醫者に見放された難病死病の珍妙療法が流行するのも無理はない。

さてこの虹彩診斷と云ふものゝ本を糺せば、今から百年程前にハンガリーの百姓の子供のイグナッツ、フォン、ペッツェリーと云ふ者から始まつたのである。即ち當時十一歳になるペッツェーリが或日のこと一羽の梟を捕へたところが、此鳥が恐ろしい勢で子供の腕に爪を立てゝ、どうしても放さない、とうとう爪を一本折つてやうやく放させたと云ふ。然るにその爪を折つた際に、ペッツェリーは炯々たる梟の眼中に於て丁度瞳孔の下の處に當つて一條の黑い筋が現はれたのを認めたと云ふのである。それから此の梟は捕へて飼つて置かれたが、眼に生じた黑い線は爪の傷が癒ると共に漸次不規則な透明な線で圍まれたが、そのまゝに殘つてゐたと云ふことである。斯樣な驚き恐れた子供のあわてた觀察が如何なるものであつたか分からぬが、兎も角も此の事件が今日の虹彩診斷と云ものゝ濫觴で、その基礎となつたものである。

このペッツェリーの眼診斷は、其後全く絕えたわけでもなかつたが別に世に喧傳されるにも至らなかつた。然るに十七年程前に獨逸のクレーフェルドに粘土牧師のフェルケ事件と云ふことがあつて、それから虹彩に依て身體の病氣を診斷する法があると云ふことが世間に廣まつたのである。その事件と云ふは、この牧師がハンブルグの一少年の病氣を診斷して、肝臟の鬱滯であるとし、粘土の罨法を處方したところが三日目にその少年は死亡したのである。そこの泥牧師は告發されて裁判を受けたが、その審理

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中に自分がどうして目に依て診斷を下すかと云ふことを述べた。それが賛成者からも反對者からも面白い事とされ、牧師は不承であつたが、とう／＼ボーン大學の臨牀講堂で樞密顧問ガルレ氏檢證の下に診斷を行はねばならぬことゝなつた。然るにその診斷は殆ど殘なく誤であつた。そこで牧師は少年の死を致したるものなりとの有罪宣告を受け、多數鑑定人の聽取に依て眼診斷と云ふことは出來ないことであるとされた。然るに控訴審に於て、この牧師には善意が缺けて居らぬからと云ふ理由で無罪になつた。この事件の後、眼診斷家と稱するものが雨後の筍の如く發生し、それを又新聞などが吹聽し誇張したるものである。

斯樣なわけで、この眼診斷と云ふものは非醫者共の唯一の診斷法となつた。歐羅巴には素人醫者、自然療法家、自由治療家、山師醫者などと云ふ連中が我國よりも跋扈してゐる。然し是等の非醫者は醫學の素要なきは勿論身體の何處に何が在るか、それが何んな機能を營んで居るものかも知らないのであるから、臨牀上の經驗に本づき又は醫學上當然の推理に依て診斷を下し得る筈がない。それでも病人には何處に病氣が在るか言はなければならぬ、そこで右に掲げた樣な圖を暗記して置いて眼で以て一切の病氣を言當てることにすれば誠に簡便で如何に無學文盲な人間でも出來る、それに少し小利口な者になると我國の八卦おきの樣な、嘘の樣な本統の樣な所謂牽強附會の說を其人次第で何とでも言ふて說伏する、愚な人間はそれで納得する、即ち自分で自分の病氣を山師者の口先に當はめて滿足するのである。

それに彼等の口癖に云ふ口上は、學校出の醫者は吾輩の妙術を研究もしないで擯斥して居るのだと云ふことである。然し今日の診斷學と云ふものは、數千年來世界中の學者が時間と勞力とを惜まず千辛萬苦研究に研究を積ねて來た結果であつて、無論未だ完全とはいへないが說明のつかない診斷と云ふものは甚稀な位な程度に迄達して居るのであつて、眼

診斷家とか其他の非醫者輩の祕傳として居る樣な簡單粗末な診斷法乃至治療法は遠の昔に研究もし實驗もされて、誤つて居るもの又は無效乃至不利益な方法として皆既に廢棄された、その遺物に過ぎないのである。それを無學な者、山師者などが拾取つて大事げに尾鰭を附け、少しく方法を變じて、他に藝もない所から、病氣で苦しんで心まで迷ふて居る人々を食物にする爲の釣針に利用してゐるのである。この虹彩診斷法と云ふものも、獨逸の眼科醫ドクトルフレーゼと云ふ人が、最も虹彩診斷に都合のよささうな種々の病人に就て八百例から檢査して見たが全然役に立たなかつたと云ふことである。尙ほ最近にも有名な虹彩診斷家のクレーゼルと云ふ者が、虹彩診斷の講演をやつて、それから病院で衆人の前で、その診斷を實際にやつて見せると云ふことであつた。そこで屛風の陰に病人を置いて、目だけが看える樣に孔をあけて置いて診斷させた所が、百發百中の誤診で、誰が見ても間違のない肺結核の甚しいものや、手術されて脚の無い者などまでも當てることが出來ず、八例ばかり診斷を試みた後大味噌をつけて逃出したと云ふ滑稽がある。

これは單に虹彩診斷と云ふものゝ馬鹿げたものであると云ふことを例に擧げて解剖して參考に供したのであるが、醫術に關するいたづら者の仕事は、縱令それが善意であらうが惡意であらうが、皆この類で、若し善意で左樣な事を信じてやるとすれば、それは憐むべき無智の人間であり、それを信用する病人は尙ほ一層憐むべき人であるが、惡意を以て、卽ちその診斷療法は、今日の學理に反いて不都合なものであると云ふことを知りつゝ、飯種に病人を誑惑して不正の利を占めやうとする者であれば、眞に惡むべき者で、これに引掛る病人は氣の毒な人ではあるが、愚な人と謂はなければならぬ。現今我國に於て此種の山師者は取締つて居るが、尙ほ法律の不備につけ込んで盛に跋扈して居り、好んでそれに引掛かり、自ら嵌まり込む人もなか〳〵少なくない、實

に慨かはしい次第である。

育兒

兒童結核と社會衛生

（日本兒童學會演說）

醫學博士　篠原昌治　述

結核性疾患の豫防及び治療の必要なることは多くの人によつて唱道せらるゝ處でありますが、其實績を擧ぐることは頗る困難なるものでありまして、現に本疾患は歐米各國に於ては年と共に其數を減少しつゝあるにも拘らず吾國に於て更に其減少を見ざるのみでなく却而漸次增加すべき傾向を有すると云ふことは、社會衛生上大に憂慮すべきものであつて之が撲滅に就ては國民一般協力一致して大に努力せねばならぬことであります。而してこれに就ては既に種々なる方法が講ぜられて居りますが、就中兒童時代に於ける結核の傳染を豫防し且既に之に罹つたものに對して適當なる治療を行ふことは極めて大切なるものであります。

然るに此際第一に考慮すべきことは、元來人間は其幼年時代に結核に罹るものが多きか否かと云ふ事でありますが、之は近來の研究殊にピルケー氏「ツベルクリン」反應によつて結核の有無を檢査せらるる樣になつてからの成績によれば、殆ど凡ての人間は其幼年期に一度は結核性疾患に罹るものである、然しながら其中の大多數のものは事實上結核性疾患に罹れるにも拘らず何等徵候を現はさず從て患者自身竝に其家族に於ても其人が結核に罹つたと云ふことを覺知せずして自然治癒を來すものであつて、唯其中の小數のものが結核性疾患の症狀を發し尚其中の一小部分のものが進行性結核となるものであると云ふことであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兒童時代に於ては斯くの如く多數のものが結核性疾患の感染を來すものでありますが、其原因としては普通大人に於ける結核感染と何等異なるものではありません、然しながら其中に於ては一、二の兒童に特有と認めらるゝものは、第一に小兒は多く牀上に遊戯するものでありまして其際手指を汚染し其手を以て食物を攝取するものでありますから、若し其家族又は同居者に結核患者があつた場合には其等の患者は咳嗽、噴嚏等によつて結核菌を飛散せしむるものでありまして、從て小兒は是等結核菌を手指に附著し、それを食物と共に嚥下して結核に罹るべき危險を有するものであります、斯の如くにして小兒に家族傳染の多きことは一家相踵いで結核に侵さるる場合に多く家居せざる小兒のみ之を免れ、又其反對に他所に於て成長せる小兒が結核を有する兩親の許に歸來し罹病することあるは吾人の屢〻實驗する處であります、又第二には幼兒は多く牛乳を用ゐるものでありまして、此牛乳より屢〻結核の感染を來たすものであります、それは元來牛には廣く結核性疾患の傳播せるものでありますから牛乳に就ては嚴重なる檢査が行はれ結核牛の乳汁は決して販賣することは出來ないこととなつて居りますけれども、此檢査も常に理想的に行はるゝものではなく從て市中に販賣せらるゝ牛乳の中には結核牛の乳汁が混在して居ることもあります、然しながらたとへ結核牛の乳汁でも一旦煮沸して使用すれば結核の傳染を來すべき危險はありませんけれど、時としては煮沸も充分に行はれないで此牛乳より結核の傳染を來す場合も少くないものであります。斯くの如くにして幼年時代に於ける牛乳より來る結核の傳染は主として腸結核を來すものでありますが、それも大人の腸結核とは稍〻其趣を異にし大人の腸結核は多くは其粘膜に結核を生ずるものでありますけれど兒童の腸結核は殆んど其粘膜を侵すことなく主として腸間膜腺の結核を發生するものであります。

既に兒童時代に於て多數の結核傳染を來すものと

すれば、これが豫防及び治療の緊要なることは極めて明瞭なる事實であります而して其豫防法は素より一般結核豫防の通則に從ふべきものでありますが其際大切なることは第一に結核患者を隔離することであつて、第二には小兒に牛乳を用ゐる際には其牛乳が健康であると云ふことが特に證明せられた場合以外は必ず之を一旦煮沸して使用することでありまして、又其治療法としても一般結核治療法の範圍を出づるものではありませんが其間一、二の特に注意すべきものがあります。

兒童結核は屢々大人に於けるが如く呼吸器疾患に固有なる症狀を以て起始することなく、單に顏色が惡い、肥えないか又は瘦せる、元氣がないと云ふことや又は輕い咳嗽が出る、時々盜汗が出る、熱が出やすい食慾がない、時々腹痛や下痢があると云ふ樣な極めて不定なる症狀を訴へる場合にそれをよく診察すると結核であることが少くないから、兒童の結核は其診斷上に於ても特に注意を要するものであります。

小兒結核の治療としては完全なる設備を有する療養所に入ることを極めて必要とするものでありますが、吾國に於ては斯る療養所の設け少きを以て多くの患者は其家庭に於て治療せらるゝものでありまして、其際醫師は主として藥物の作用によつて之を治療せんとし其他の氣候療法榮養療法の如きは全然顧みられないではないが多くは之に重きを措かず又之を勵行せんとするも其實行極めて困難なるものであつて、患家にあつても亦斯る治療法を以て滿足するものでありますが、これは結核の治療上大きに間違つた方法でありまして、若し今後に於て結核に對する理想的藥物が發見せられた曉には單に藥物の作用のみによつて結核を治療することも可能でありませうが、少くとも現今の狀況にあつては結核は單に藥物の作用のみによつて治癒すべきものでなく、氣候療法、榮養療法等の如き自然療法を極めて必要とするものであつて、此自然療法のみによつてはよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く結核治療の目的を遂することが出來るけれど、其反對に單に藥物のみによつて之を治癒せしむることは殆んど不可能のものなるに拘らず、吾國現時の結核療法が斯くの如く主客顛倒せるが如き狀況にあることは本病治療上實に憂慮すべきことであります。

又小兒結核の治療に際しては多くの場合に於て其主要症狀が消退する時は其疾病が治癒せるものの如く考へられて其治療も亦廢止せらるるものでありますが、これ亦大に間違つた處置であつて、普通其症狀が消退するも疾病そのものはまだ全治せるものではありませんから、其際直ちに治療を廢止すれば多くはその再發を免れないものであります。其故此疾患の治療に際しては其病的症狀が消退する後に於ても充分健康狀態が恢復するまで治療を繼續するを要するものでありまして、歐米各國に於ける結核治療に就ては此點は特に注意せられて居るものであります。私が千九百二十年に墺太利に於て兒童結核療養所を參觀しました際に、當時同國は戰後貨幣の下落によつて國民一般非常に困難して居るにも拘らず同國兒童結核療養所には外觀上頗る强健であつて、結核患者たることは想像も出來難き兒童を收容し之に治療を加へて居るのを見まして非常に感心した次第であります。

兒童結核の豫防及び治療は極めて大切なことでありますが、單に之を唱ふることは容易でありますけれど吾國目下の狀況に於ては其實行が頗る困難であると云ふことは實に遺憾な次第であります。何となれば元來疾病の治療に對しては常に少なからざる費用を要するものであつて殊に結核の如く長期に亙る慢性疾患にあつては其治療に就て頗る多額の費用を要するものであります、然るに一般國民の中產階級以下のものにあつては多くは日々孜々として其業務に從事するも其得る處は僅に其日々々の生活を支ふるに過ぎないものであつて其間何等の餘裕を有するものでないから、一旦病氣に罹つた場合に之に向

つて醫療を加ふることすら頗る困難とする處でありまして、殊に此結核患者を隔離靜養せしむることは獨り兒童結核の豫防上大切なるのみでなく一般結核防止上極めて緊要なるものでありますけれど、其爲め非常に多額の費用を要するものでありますから相當資力を有するものにあらざれば到底其負擔に堪ふることが出來ないで其實行到底不可能なるものであります。然るに結核患者隔離の困難なるは單に上記の理由のみによるものでなく多くの結核患者はたとへ日常結核菌を含有する喀痰を喀出する程度のものであつてもよく其業務に從事し得るものであるから之を隔離し全然其業務に從事することが出來ないこととなれば若し其人が從來その業務による所得を以て一家の生計を立てて居つたものであれば其爲に忽ち生活の途を失ひ一家を擧げて饑餓の不幸を見るに至るものであります、於是乎此結核の豫防及び治療と云ふことは患者並に其家族に於て其意志があつても個人の力を以て之を實行することは頗る困難であつて、其際何等か他よりの援助を要することとなり從て此結核の豫防及び治療は個人衞生上の問題でなく一般社會問題となるものであります。

然るにこれが救濟としては種々なる社會政策的施設が行はれて居りますが、就中最も便利なりと考へらるるものは社會保險制度であります。然るに同じく社會保險と申しましても之が行はるる國によつて其組織を異にするものでありまして、從て之によつて國民の得らるべき利益は一樣ではありませんが此保險制度のよく發達せる國に於きましては一般國民中の中產階級以下の大部分のものは此保險の被保險者となり是等被保險者は一旦疾病に罹つた場合には此保險によつて醫療を加へらるるのみでなく其爲に勞務に從事することが出來ないで所謂不能となつた場合には其人の給料の半額に相當する金額を疾病手當金として給與せられ、又此患者を病院又は療養所に收容して醫療を加ふることもあつて其場合に於ても家族手當金として疾病手當の半額に相當する金

額を支給せらるるものであります。其故此保險の被保險者たるものは何時結核性疾病に罹つても自ら何等の費用を支出することなく此保險によつて充分なる醫療を加へ其他これを病院又は療養所に收容して其家族より隔離することが出來るのみでなく其爲に所得不能となつた場合には疾病手當金又は家族手當金が支給せらるゝから一家の生活に差支ふることもなく極めて便利なるものであります。然るに吾國に於ては未だ此社會保險は行はれて居りませんけれど既に健康保險法が制定せられ明年度に於て之を實施せらるることになつて居りますが、其被保險者は單に工業勞働者及び鑛山勞働者に限られて居りますから其恩澤に浴することの出來るものは極めて小數であつてこれによつて一般國民の結核豫防及び治療上の效果を擧ぐるに至るは前途頗る遼遠なるが如き感あるものであります。

然るに又結核の豫防及び治療は一日も之を忽にすることが出來ないものでありますから、之に就ては或は官公立の施設により又は私設團體の力によつて患者自身其費用を負擔することなくしてよく之を隔離し又之に向つて充分なる治療を加ふることが出來る樣にすることは社會政策上極めて緊要なることであります。

明治天皇御集に見えし兒童

村尾節三

明治大帝の絶世の英主にて、且歌聖なる事は、國民の周知する所にて、其の御製、萬を以て數ふべく大正八年、宮内省の臨時編纂部にて、編成奏上に及びし、明治天皇御集に錄されたる者、千有餘首にして、木版に附し、臣下に下賜せらる、後活字にて印刷し、頒布せられしより、國民捧讀して、益々御盛德を仰慕するに至れり、其の御集を拜讀するに、神

祇を尊崇し、天下の安寧を祈り、國政を慮り、臣民に仁慈を垂させ給ふなど、大御心の至らぬ處なく尊尚の念禁ずる能はず、兒童に對せられても、實に能く知悉せさせ給ひ、御製に入れるもの少からず今其の一斑を掲げて、總皆を知らしめむとす。

をさなくて住みし昔のありさまを折にふれては思ひいでつつ

舟うけてをさな遊をせし時を思ひうかぶる庭の池水

たらちねのみおやの宮に幼なくて見しよ戀しき月の影かな

と先づ御幼時の追憶を拜誦して、次々に及ばむとす。

もてあそび手にとらすれば幼子が打ゑむ顔の美くしき哉

と幼時の快感を表はせるを、慈悲せさせ給ひ、

けなげにも生立ちぬべきさま見えてちごのまなじりたけくもある哉

と健全に成育すべきを、察知せさせ給ひ、

辛うじて歩み初めし人の子のひとり立つ身といつかなりけむ

をさなごのおひたつみれば老人は思ひの外に變らざりけり

と發育の速なるに御心つけられ、

ひとり立つ身になりぬともおほしたてし親の惠を忘れざらなむ

と親の恩を忘るべからざるを諭し給ふ、此の御製を捧讀して、背に汗せざる者幾人かある。

孤子に語りきかせよ國の爲命すてにし親のいさをを

此は日露戰役後の御製にて、國家の爲に盡したる、臣民の遺孤に勳績を語り聞かせ、其の父の精神を繼がしめよとせさせ給ひ、

傍に眠るうなゐは夏草を刈る賤の女のうまごなるらむ

幼子をはぐくみながら田に畑にいそしむ賤の暇なげなる

と卑賤の者の保育の勞を思召され、

いさりする親を助けてあまの子はいとけなきより小舟こぐなり

あびきする親に力をそふる哉海人の子供は幼けれども

と卑賤の者の幼時より、親の生業を助くるを、賞讚

せさせ給ふ、

僞の世をまだ知らぬ幼子の心や淸きかぎりなるらむ

思ふこと思ふが儘にいひ出づるをさな心やまことなるらむ

と純潔なる心情を賞美せられ、

つくろはむ事まだ知らぬうなゐ子の元の心の失ずもあらなむ

すなほなるをさな心をいつとなく忘れはつるが惜しくもある哉

と心性の漸く變移するを惜しまれ、

思ふ事打つけにいふ幼兒の言葉はやがて歌にぞありける

歌は華飾せずして心に感じたる儘を、詠ずべき本旨なれば、幼童の卒直なる心情より、言ひ出づる詞は直に歌と云ふべきなりと聖斷せられ、

幼兒に謠はれてこそ言の葉のしらべいよ〳〵高く聞ゆれ

愛らしく謠ふを聞し召してさ思召されけむ。

物をだにまだいはぬ子も萬代と呼べばやがて手を擧げにけり

と模倣する狀をいつ御覽じ給ひけむ、

同じ事問ひ返しつつ幼子が遊ぶうちにやもの學ぶらむ

反覆して疑を質し、智識を廣うするを、知ろしめされ、又

里の子も翅あらばと思ふらむあがる雲雀の影を仰ぎて

衝動より起る欲望を推察せらるゝなど兒童の心性に就きて、深く知ろしめされたる、いとかしこし、

幼子に摘せまほしと思ふ哉菫花さく庭をめぐりて

御散策の際にも、幼童に對する御仁慈言外に溢る。

母の手にひかれて歩むうなゐごの立とまりては菫つむなり

身のたけに及ぶ夏草かきわけて苺とるなり里のうなゐご

わたつみの神祭るらし海人の子がふなばた敲き謠ふ聲する

世の中の事まだ知らぬうなゐ子も時に合ひたる遊をぞする

江島に宿り定めてわらはべも相模の海の潮やあむらむ

わらはべの造りあげたる雪の山高き功を誰と定めむ

と兒童生活を詩化し給ふ、又敎育に就きて大御心をかけさせ給ひて、

たらちねの庭の敎はせばけれど廣き世に立つ基とぞなる

教ある庭に咲きたる撫子の花は露にも亂れざりけり

と其の必要を說かれ、

いかならむ時にあふとも人はみな誠の道を踏めと教へよ

素直にもおほしたてなむいづれにも傾き易き庭の若竹

と根本の精神を示され、

いつくしとめづる餘りに撫子の庭の教をおろそかにすな

國の爲力盡さむわらはべを教ふる道に心たゆむな

と愛に溺れ又怠慢の爲に、忽諸に附するを誡め、

よき種を選び〳〵て教草植ひろめなむ野にも山にも

吳竹のなほき心をためずして節ある人におほしたてなむ

正しくも生ひ繁らせよ教草男をみなの道を別ちて

進みゆく世に生れたるうなゐにも昔のことは教へおかなむ

と聖慮を述べられ、

打つれて園生に遊ぶうなゐごは學ぶとなしにもの學ぶらむ

學びやに入にし日よりうなゐごが物いひさへも變りける哉

と入學兒童の教化を蒙れる微細なる情況を知ろしめされ、

事しげき世に立ぬまに人は皆學の道に勵めとぞ思ふ

世の中の風に心をさわがすな學の窓にこもるわらはべ

と學童を奬勵せらるゝと共に、

いち早く進まむよりは怠るな學の道に立てるわらはべ

物學ぶ道に立つ子よ怠にまされる仇はなしとしらなむ

と訓誡せられ、

今はとて學の道に怠るなゆるしの文を得たるわらはべ

ゆるされて學の窓を出る子よ思はぬ道にふみな迷ひそ

と卒業者の前途を誡められ、

朝夕にまもり育つる教へ子はうみの子のごとかなしかるらむ

わらはべが學の道のゆるし文授くる人も嬉しかるらむ

と教師の眞情を察し給ひ、

學びえて道の博士となる人も教の親の恩忘るな

と師恩を終世忘れざらしむ。

手習をものうきことに思ひつるをさな心をいまくゆる哉

筆とりて教へし人の昔まで思ひうかぶる水莖の跡

と御製を拜誦し、御謙德のかしこさを、仰慕せらる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以上草莽の臣昌平の御代に逢ひて、謹述せるを幸榮とす。

（大正十五年九月秋季皇靈祭日）

家庭衛生

西瓜の種子の藥效

どなたも御承知の如く支那料理では、食前及び食間のつまみ物として龍眼肉とか水栗（ひし）とか又は落花生と云ふやうな種々のうまい、しやれた面白いものが出ますが、就中支那料理に特有なものは瓜子或は瓜子兒と稱する西瓜の種子の鹽炒であります。これは我邦では山雀にたべさせる位のものですが、支那人は絶えずこれをしやぶつて居ります。吾々が物好きにこれを食べて見ようとしましても、なかなかうまく殼が割れません、一個の瓜子の仁を滿足に取出すことは容易でありません、それを支那の人は齒端でもつてぷつん〳〵と幾つでも上手に割つて殆ど無意識的に食べて居ります。それで日本人や朝鮮人がいくら上手に支那語を話しても、この瓜子をぷつん〳〵無意識的に割つてしやぶりながら話すことが出來ないから、すぐ化の皮が剝がれると云ふ位なもので、芝居見物などにいつても周圍で絶えずこれをぴしや〳〵やつて居るので、非常にそれが五月蠅そうです。兎に角東京邊の鹽炒豆や豌豆煮立よりは餘程一般に且つ普通な嗜好で、どういふ譯でこんなに嗜好されるやうになつたのか存じませんが、不思議な一種の習俗であります。試みに一つ二つ難儀してやつて見ても別にうまいとも思はれませんが、段段習慣になると一種言ふべからざる微妙な味が出て來ると云ふことであります。

然るに最近發行の醫學雜誌で見ますと、西瓜の種子の中には一種の血壓降下劑が含まれて居ると云ふことであります。醫學界に於ても殊に治療劑に關

しては、何か一つ新規な物が現はれますと、素人の誤解や迷信が加はつて來て一時の流行狀態を醸すもので、例へば「ラヂウム」と云ふと「ラヂウム」が忽ち萬病藥になつて諸方に「ラヂウム」溫泉が涌出し、「ラヂウム」餅、「ラヂウム」煎餅などと云ふ物が出來、「カルシウム」と云へば忽ちこれが又萬病藥になつて、種種雜多な「カルシウム」何々が出來、「ビタミン」と云へば又直ぐに「ビタミン」ABCDEFと色々な物が飛出します。それと同樣に昨今は「インシュリン」と云ふて膵臟の製劑で糖尿病の妙藥が現はれ、延いて血壓の亢進を防ぎ血壓を減降すると云ふ處から、率中に罹からぬやうにと、これが大分騷がしくなつて參りました、兎に角血壓が高いと云ふことは非常に恐ろしい事だと云ふ考が普及されたと申しませうか流行すると申しませうか餘程素人の方々の氣になり出した樣ですから、いづれ又種々の血壓降下劑が出て來ることでありませうが、生憎これは「カルシウム」と云ふ樣な簡單な製品は出來ないので、流行しかねて居るものと思はれます。

それで私は、この種の製藥家や廣告販賣者の活動に先立つて最も安値な廢物利用に依て極めて有力な血壓降下作用ありと云ふこの西瓜の種子をお勸め致して置きます。但し實際どうか分かりませんが、少なくとも害は決して無いことだけは、支那料理の瓜子兒に由て保證致します。その醫學雜誌に表はれた報告の要點を記すれば次の如くであります。

バスクスダール氏は西瓜の一種「クークルリタ、チトルルース」の種子の中には血壓降下作用を有する物質がある。これは「グリコシードサポニン」群に屬するもので充分研究を遂げる價値があるものだと云ふ。その粗製「エキス」及び有效物質を數回內服すると毛細管の擴張を來して血壓が降る、その結果末梢血管の抵抗が減少するので心臟に過度の仕事をさせない效がある。

この有效物質で動物が死ぬるだけの量、即ち致死量を以て殺した家兎を解剖して檢査して見ると、肺

臓、肝臓及び腎臓に鬱血及び出血があり、膀胱壁の血管は著しく擴張してその粘膜には多量の粘液分泌がある。

少數ではあるが、臨床的實驗を行つて見るに、人に於ても最大血壓及び最小血壓が降り、血壓の中等度に高まれる患者、從つて大多數の人に於て脈壓の降下を示した。脈搏は明かに安定となり、自覺的にも著しく輕快を感ずる。數日間この內服を止めると患者自身で再び血壓が高まつて來ることを自覺する場合もある。尙ほ急性膀胱加答兒の四例に試みたところが、直ちに臨牀的症狀著しく輕快した。何れの場合にも不快な副作用を認めないから餘程の大量を用ゐても毒にはならぬものと思はれる。

幽明交通の實驗

これは別に家庭衞生に關した事でもありませんが我國でも西洋でも神子とか巫女とか云ふ種類の者がありまして、死んだ人の靈魂と通信が出來ると申します。これが爲に衞生上にも間接に種々の問題を惹起することがありますから、その實際どんなものであるか心得て置くことは又以て精神並に身體の衞生と謂ふべきものでありませう。これに就て四年程前から始めて昨年終了した西洋での一實驗の經過と成績を御紹介致します。

千九百十七年十二月十七日にドクトル・ジルベール氏の夫人が亡くなりました。ジルベール氏は、人間の靈魂が死んだ後にも人界に交渉すると云ふ問題に就て、何んでも思へ得るだけの方法を盡して實驗して見ようと試み、一切の自然科學、半科學乃至僞科學に至るまで有ゆる手段を講じたが全く役に立たぬので、その實驗を公開に附さうと決心し、その事情をポートランドの「モーニング、オレゴニアン」に掲載し、「アッソシエーテッド、プレッス」の紹介で懸賞つきで廣く答案を募集したのであります。その廣告は左の如きものでありました。

ボートランド、オレゴン一九二二年五月三十日

ジー、アーレン、ジルベール夫人フロランス、アー、ヅェド、ジルベールは一九一七年十二月十七日に亡くなりました。既にその一個月も前から、直に死ぬることは確かだつたのです。私共は兩人共非常に心理學に興味を有して居る者で、神靈術の現象を堅く信じて居る友人を持て居りますが、私共は孰れも死人の魂が返つて來ることが出來ると云ふ何等の經驗も有せず、又その事實が證明されたことも認めることが出來ませんでした。私共は、その死後に神靈術の篤信家たる吾々の友人に依て、私にあてた彼女の知らせがあるだらうと信じました。これは決して自分で自分を欺く氣遣はありませんが、併しその事件を取調べ得べき科學的の基礎を得んが爲に、彼女と私とは、その死前に暗號或は符牒と云つた樣な一種の合言葉を申合はせ、それに據て私が、彼女から來たと言はれる知らせが實際彼女に出るものであると認定し得る樣にしたのであります。而して彼女は出來るだけ戻つて來ることとし、併し私は唯だ私共が取定めた符合を伴つてゐるもののみ眞實の現象乃至眞實の報知と信ずることに致しました。私共は斯ういふ事柄に就て虛僞や欺騙の甚しく蔓延つて居ることを痛歎したのであります。

ジルベール夫人に出たと稱する報道が反復して私の許に參りました。合圖は至て簡單なものですが、一例もその報道の仲介者に、この暗號を提示し得る者がありませんでした。二三例に於ては、ジルベール夫人と話をしたと云ふ長い談話が報告されました。然るに例の暗號に就て詰問されると、忽ち何も出來なくなつてしまつて、この流儀の報道は全く止むでしまひました。玆に附加へて申しますが、若し此等の報道が眞實のものであるとするならば、彼女に關する私の記憶と比較して、ジルベール夫人は憐むべき精神の頽廢を來したものと申さなければならぬ事です。

暗號は筆で書いて三重に封印して金庫の內に納めてあります。最も有名な降神術家に依て、これを言當てる試驗をされましたが無効でした。

この趣旨による試驗を奬勵し且つ出來るだけ遂行せんが爲に、私はジルベール夫人に關する道筋の合言葉を提示することに成功した御方には五百「ドル」の賞金を呈上致します。私は何でもその成功に必要と思はるゝ一切の合理的條件に應じて、その實驗の御手傳を致す積りであ

ります。

右の公開文に對して、孰れも（ジー、アーレン、ジルベール）ジルベール夫人からの音信だと稱する總數一百三十九件の書信を寄せられ、暗號を申送られたが、皆悉く間違でありました。大抵その暗號は直接ジルベール夫人から得たと主張し、容貌は小柄なこと及び服裝などに就て色々な事を告げられましたが、此等の記事は甚しく實際に遠く、笑を禁じ得ぬ樣なものがありました。往往暗號を感づかうとして商賣にして居る「メヂウム」を使つたり「クイチャ、ボード」とか靈書などと云ふ神祕の方法を利用した者もありまして、その報道の一には、金星からジルベール夫人の音信を得たと云ふのがありました。多くの投書はドクトルジルベールの書盡してない最初の頭文字Jに暗號があるものと推察して、ジョーン、ジェームス、ジムミイ、ジムなどと云ふ暗號をジルベール夫人から得たと申しました。これは明かにジルベール夫人が自分の良人の字ジョシュアを思出せなかつたものと云はなければなりません。のみならず彼女は自分の字さへも思出せなかつたとみえます、何故ならば、その存生中誰も呼んだことのない、スウザン、アンニイ、ルイザ、オーロラ、サムビーム、ピュッシイ、アンナなどと云ふ署名をして居るからです。尚ほ英國の一雜誌がドクトルジルベールの手紙を掲げる時に、ジー、アーレンと書くべき所をジー、ジルベールと書いたのに、夫人はこの誤にも氣が付かなかつたのであります。

多數の投書に依りますと、ジルベール夫人は存生中の見識には似もやらぬ精神の下劣な「メヂウム」(巫女)の口振で話して居ります。

これを要するに、何等一も不思議な隱れた氣力の働を證明すべきものがないのです。然るにドクトルジルベール氏は尙ほその暗號を開封せずに實驗を續け、更に千九百二十五年十一月一日迄、ジルベール夫人よりの合言葉を提供するに成功した人に對し

五百「ドル」の賞金を懸けました。

此度は亞米利加の「サイエンチック、アメリカン」誌も斡旋したことゝて昨年の十一月一日迄に、この解答に苦心した媒靈者連から三百通の書狀が舞込だのであります。但しその內十六通は、最初から要求された合言葉に就て何も言ふてないので除外しました。その開封には「サイエンチック、アメリカン」の編輯同人及び其他の新聞代表者等が立合つて嚴重な鑑査の下に行はれたのであります。米國人及び英國人の外に、この懸賞を得ようと試みた者には獨、墺、佛國人及び波蘭人、日本人もありました。その內で最も賢明な者は、『合言葉を知らすれば、その良人が五百弗の損をするものだから、ジルベール夫人は言はないのだ』と書いてありました。斯樣な次第で三百通の中で兎も角も合言葉を提示したものが二百八十四通殘りました。今玆にその奇怪千萬な樣々の解答を列擧することは御免を蒙むつて、次の成績だけを申上げます。

つまり悉く誤で落第でした。ドクトルジルベールが千九百十八年一月一日に密封した合言葉の封印を切りました所が。その標識と云ふのはドクトルジルベール及び同夫人の誕生日並に二名の令孃の誕生日を告げることでありました。而かも終に一人のこれを言當てるものも無かつたのです。

この實驗の成績を見れば、殆ど全歐羅巴の有名な降神術家と云ふやうな連中が五百弗の懸賞に引掛つて試驗され、見事に落第したわけです。我國に於ける神子や巫女と云ふやうな種類の者も、斯樣に實驗的に嚴密に試驗されゝば百發百中の落第な事は必定です。つまらぬ事に迷つたり馬鹿にされぬ樣にすることが衞生上にも肝要なことです。

香油罎の匂拔き

舶來品の香油罎には、その硝子の性質、格好、色合などの面白いものがあつて、空になつたら何かに

利用して見たいと思ふものがあります。併し稍々上等の物になると、容易に匂が拔けません、もとより匂は好いが、それでは他に利用し應用するに不都合な場合があります。この時には黒芥子粉を入れて熱湯で洗ふと一度ですつかり匂が拔けます。

雜報

○人口增加と死產及び離婚

大正十四年度帝國人口動態統計の結果に據り特に注目されるのは人口自然增加と死產及び離婚の事實である。

人口自然增加は死亡に對する出生の超過であつて其數八七萬五三八五人、前年よりも多いこと一三萬餘人で從來の最高を示して居り、此の未曾有なる自然增加の對抗策としては食糧と移民の二問題が考慮されて居る。

死產總數一二萬四四〇三其內男兒六萬七五八〇女兒五萬六五〇六、外、男女不詳が三一七であつて、人口千に對し二・〇八の割合で分娩總數五分六厘に當る。是れは乳兒死亡率の高さと相較べて大に思惟すべき事である。

尙離婚は總數五萬〇六八七を算し前年より八三の減少を見て居るが是を歐洲諸國のそれに比すると遙かに多數である事は遺憾とせざるを得ない。

○學校看護婦設置狀況

一、**全國に於ける學校看護婦設置狀況**

全國に於ける學校看護婦設置狀況は各府縣竝に殖民地を合せ設置件數三百二十五件にして學校看護婦總數五〇四人なり、就中設置件數の最も多きは大阪の七十七件、次で兵庫の三十三件、佐賀の二十五件等にして東京、長崎、山口の十三件、香川、福岡の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十二件、廣島の十一件等これに次ぎ岐阜、愛媛八件、千葉、熊本、岡山の七件、神奈川、秋田、朝鮮の六件、新潟、鹿兒島の順序にしてその他の府縣に於ける設置件數は何れも五件以下なり。又學校看護婦數は大阪最も多く(七十七名)次で長崎(三十六名)東京(三十五名)兵庫(三十三名)佐賀(三十二名)福岡(三十名)廣島(二十五名)北海道、岡山(十七名)熊本(十六名)山口(十五名)香川、朝鮮(十四名)岐阜、青森(十三名)新潟大分(十名)千葉、秋田、和歌山、愛媛(八名)神奈川、滿洲(七名)石川(六名)山形、鹿兒島(五名)の順序にしてその他の府縣は五名以下なり。

一、學校看護婦の資格別

學校看護婦の資格は大體左の七種なり。

(一)看護婦及産婆の資格ある者、(二)看護婦の資格ある者、(三)産婆の資格ある者、(四)准看護婦と報告せる者、(五)敎員の資格ある者、(六)藥劑師の資格ある者、(七)その他に區分することを得べし。

一、學校看護婦の執務狀況

各地に於ける學校看護婦執務の狀況を概括するに「トラホーム」治療介補を主とせるもの漸次減少の傾向を示し一般學校衞生に關する執務に從事するものの數次第に增加せるは喜ぶべき現象なり。而して最初「トラホーム」治療介補を專とせるものも一般學校衞生上の執務の一部として行ふもの次第に多からんとするの狀況にあり。而して一般學校衞生の執務としては文部省學校衞生課學校看護婦執務指針によりこれを學校內及び學校外の勤務に區別し學校內に於ては(一)設備衞生の視察(イ、校地ロ、校舍及その他の建物、ハ、校具敎授用具)、(二)兒童の視察(三)敎授の視察、(四)體育の視察、(五)學校診療設備の整理、(六)身體檢査の補助等の事務に從事し。學校外に於ては(一)家庭訪問、(二)家庭訪問に關する注意、(三)運動會遠足、郊外敎授等の事務に從事するもの多し。

○兒童扶助法案

社會局にて攻究中なりし兒童扶助法案は、過般

社會事業調査會に於ける審議の結果可決されたり、その要綱は左の如し。

一、十四歳未滿の子を自己の家庭に於て養育する寡婦及其の十四歳未滿の子又は十四歳未滿の孤兒にして貧困の爲生活すること能はざる者は本法に依り之を扶助すること

二、婦女左記各號の一に該當するときは本法の適用に付て之を寡婦と見做すこと

(一)夫所在三月以上分明ならざるとき

(二)夫入監したるとき

(三)夫疾病、不具癈疾又は老衰の爲勞働すること能はざるとき

(四)離婚又は婚姻の取消ありたる後子の父死亡し又は前各號の一に該當する事由生じたるとき

(五)內縁の妻にして其の夫死亡し又は第一號乃至第三號の一に該當する事由生じたるとき

三、棄兒遺兒又は迷兒は本法の適用に付ては孤兒と看做すこと左記各號の一に該當するときは亦同じきこと

(一)父及母所在三月以上分明ならず、入監し又は疾病、不具癈疾若くは老衰の爲勞働すること能はざるとき

(二)母死亡し父前號に該當する事由生じたるとき

四、寡婦虐待、不行跡其の他の事由に依り子の養育を爲すに適せざるときは之を扶助せざる事

五、本法に依る扶助は扶助を受くべき者の住所地市町村長之を爲すべきこと但し住所地分明ならざるときは現在地市町村長之を爲すこと

六、本法に依る扶助に關する費用は當該市町村の負擔とする事

七、(略)

八、扶助の種類は現金給付、現品給付、及び醫療とすること

九、(略)

十、市町村長は明治三十三年法律第五十一號に依るの外第七に依り委託に付せられたる孤兒、棄兒、遺兒其の他父及母親權を行ふこと能はざる兒童に對し勅令の定むる所に依り自ら後見人の職務を行ふこと

此の場合に於ては後見人は後見を行ふことを得ざること

十八、本法の扶助を受くる者は恤救規則に依り給與を受くることを得ざること

軍事救護法に依り救護を受くるものは本法により扶助を受くることを得ざること

○東京市の人口と子供

最近の統計で見ると東京市の人口は百九十二萬人で、其內一乃至五歳迄の子供が二十萬四千人、五乃至十歳迄の子供が十五萬五千人十一乃至十五歳迄が十九萬三千人で即十五歳以下の子供が合計五十五萬人である。之を東京市全人口に比較すると四分の一强は子供であることがわかる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○歸鄕女工の健康狀態調査

内務省社會局に於ては農村の保健問題殊に結核豫防上紡績製絲女工の病氣歸鄕者の健康調査の必要を認め、今回各地方長官あてに通牒を發し愈〻調査に着手せり、其方法は調査票を工場法適用工場に配布して大正十二、三、四年間に於ける疾病未治の儘解雇したる女工の當時の疾病名、症狀、療養期間、雇入の際の健康等を調査票各項目に記入せしめ之を女工の鄕里警察に廻し父兄又は本人に付き歸鄕後の狀況、家族に對する影響、家族の健康狀況、結婚者の產兒關係等をも調査記入せしむる者なりと云ふ。

○特殊營業從業者の保菌檢査

警視廳にては腸「チフス」豫防の一端として本年四月二十三日以降管下の料理店、飲食店從業者全部に對し腸「チフス」、「パラチフス」病原體の檢索を施行中なりしが去る九月三十日を以て第一回を終了し、其の成績を觀るに採便人員實に十二萬一千九百五十八名の多數に及び內保菌者腸「チフス」二十、「パラチフス」三十三、赤痢三名にして其率は一萬に對し四・三の割合を示し、而して以上五十三名の保菌者中屎にのみ排菌したるもの、腸「チフス」十六名、「パラチフス」三十名、尿にのみ排菌したるもの、腸「チフス」三名、屎尿共に排菌したるものはなし、因に其の第二回は去月一日より着手せり。

○兒童愛護學校

内務省社會局では震災恩賜金の殘餘金二十八萬圓を資金に、財團法人兒童愛護會を組織し其事業として千葉縣一の宮川口の松林中に兒童愛護學校を新設する事になり近く工事に着手する筈である。同校は虛弱兒童の保護敎育を目的とし、建物は療養所、林間敎室、保姆看護婦室、療養病者寄宿舍等を設け、寄宿舍には「サンルーム」を設けて日光浴を行はしめる等最新の科學的設備が種々計畫されて居る。尙將來は學費貸與や乳兒の研究に迄及ぶ方針で、同會長は長岡社會局長官、理事長は守屋社會部長、理事は本野久子氏と栗山重信博士以下九氏であると云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮大妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 子爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

理事 鳩山春子
同 岡田徳子
同 山口貞子
同 三浦敬子
評議員 入澤常子
同 服部繁子
同 子爵母堂 仁禮壽賀子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 近藤窓子
同 男爵母堂 青山孝子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 天野多喜子
同 羽田三緒子
同 原光子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 松平芳子
同 男爵夫人 古市幸子
同 相磯まさ子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 瀬川さわ子

大正十五年十二月四日印刷
大正十五年十二月七日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者 荘司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所

東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同 市銀座三丁目 東海堂
同 市京橋區鎗屋町 亘明堂
同 市本郷區龍岡町 南江堂支店
同 市芝區愛宕町 明文館

京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京京橋元數寄屋町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第三百八十二號　大正十五年十二月七日發行

陣痛催進劑
ピツイトリン

ピツイトリンの產婦人科領域に於ける聲價は眞に隆々たり。之蓋、本品は子宮に作用して之を收縮せしめ、而も他の子宮緊縮藥に於けるが如く、其性質强直性ならず、〇・五乃至一・〇ccの注射により、能く逃に陣痛强盛を來して、產期を短縮せしむる效果、顯著確實なればなり。

ピツイトリンは又强心、止血、利尿の作用ありて種々なる內科的疾患に試みられつゝあり。

【文獻集あり御申越次第進呈す】

試賣細球　一cc入
三管壹箱

妊娠惡阻特效藥
ユゴール

ユゴールはドクトル飯田左三先生の發見せられたる惡阻の治療藥にして、多數實驗家の臨牀成績は妊娠惡阻に對し、顯著確實の奏效を示したるのみならず一般諸種の嘔吐患者に對しても亦用ふるに足る藥劑なるを明にせり、而してユゴールは些の副作用なく、之れが應用は何等の不安、何等の顧慮をも要せずと稱せらる。

【文獻御申越次第進呈】

◆賣品種類◆

注射用ユゴール
一cc細球十管入
內用ユゴール
膠球(〇・三瓦)五十球入
同百球入

本社　東京室町

發賣元　三共株式會社

出張所　大阪淡路町
臺北府後街

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN